模擬申請書

**注）URA申請書改善支援用です。本申請には使用できません。**

下述のステップ１，２，３に従って模擬申請書を作成しPDF化後、申請内容ファイルもPDF化し、これらの結合ファイルを改善支援申し込み時に登録したパスワードで保護し、URA研究戦略推進室に送付してください。

* ステップ1：確認事項のチェック

|  |  |
| --- | --- |
| **確認事項** | **Yes/No** |
| ―専門家チェックについて―  **申請書の内容について、指導教官又はそれに代わる人からのフィードバックによる改善を行いましたか？** ※原則としてURA申請書改善支援は、専門家による本格的な内容改善の後の「伝わり方改善」と位置づけています。ただし、分野の特性により困難な場合は柔軟に対応致します。 |  |
| ―ご協力のお願い―  採択された申請書は、今後挑戦する後輩達にとって得難い学習材料となります。本申請が採択された場合、あなたの申請書を非特定化(anonymize)をし、申請者限定の教材として使わせていただくことは可能ですか？※非特定化した状態を確認いただいた後に使用します。 |  |
| ―支援室　締切について―  この支援は本申請とは異なります。ご自身の書類提出先及び締切日を把握していますか？  提出先：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　支援室、　　〆切：　　　　　　　　月　　　　　　　　　日 |  |

* ステップ２：下記チェックリストの観点で申請内容ファイル見直す。

|  |  |
| --- | --- |
| **チェックリスト** | **Yes/No** |
| 研究内容を端的に表し、かつライバル申請書の中で注目される内容か |  |
| 申請者の研究を含めた広い領域における本研究の重要性を簡潔に述べているか |  |
| 分野における重要な未解決問題に対する取り組みとして述べられているか |  |
| 申請者のこれまでの関連分野における研究内容について、自分の寄与が見えるように述べているか |  |
| これまでの申請者の研究、あるいは同分野の研究の問題点・未解決課題を述べているか |  |
| 問題の解決方法・研究方法をわかりやすく述べているか |  |
| 研究目的を直接的な表現で述べているか（例:「本研究の目的は○○である」など） |  |
| 問題の解決に繋がる新しいアイデア・手法・コンセプトを提案しているか |  |
| 申請者のオリジナリティや他の誰でなく申請者こそがこの研究をすべき理由を述べているか |  |
| 分野の重要文献を適切に引用しているか（その分野を良く理解していることのアピール、審査員になる人の重要業績を言及出来ているのが理想←難易度高し） |  |
| （PD, RPD限定）申請者の実施した事項のうち博士課程在学中の研究内容がその他のものと区別ができるように記載したか |  |
| これからの申請者の研究によって、領域や他の領域にどのような展開が期待できるかを説明してか |  |
| 様式の指示書きに従い、必要項目をもれなく記述したか |  |
| 研究方法、研究内容の計画性をアピールできているか |  |
| 何を、どこまで明らかにしようとするのかが明確にのべられているか |  |
| 所属研究室の研究との関連において、申請者の担当部分が明確か |  |
| 所属機関外で研究を行う場合、その旨記述しているか |  |
| 先行研究と比較し、本研究の特色、着眼点、独創的な点を記述したか |  |
| 研究計画について、申請時点から採用までの準備も入れ、年次毎に漏れなく記載したか |  |
| 専門が少し離れた審査員にも理解しやすい記述にしたか |  |
| 領域の専門家の間のみで使われる用語（jargon）を避け一般的な用語を用いたか |  |
| 数十もの申請書を読む審査員が最小の労力で内容を理解できる工夫（セクション立て、適切な図示）をしたか |  |
| （PD, RPD限定）受入研究室の選定理由：受入研究室を知ることとなったきっかけ、及び、採用後の研究実施の打合せ状況を記述したか |  |
| （PD, RPD限定）受入研究室の選定理由：申請の研究課題を遂行するうえで、当該受入研究室で研究することのメリット、新たな発展・展開を記述したか |  |

* ステップ３：次からの申請書のうち、①から⑧のみを記入し、本ファイルをPDF化する。

(申請書情報)

令和3年度採用分　特別研究員－ＰＤ 申請書

第 版

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 審査区分 | ①申請資格 | ＰＤ | 受付番号 |  |
| ②書面合議・面接審査区分 |  | | |
| ③書面審査区分 |  | | |
| ④小区分名 |  | | |
| ⑤小区分コード |  | ⑥専門分野 |  |

⑦ 研究 課題 名

○○大学

**1．申請者情報等** ~~（申請機関コード： ）~~

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| ⑧氏 名 | （フリガナ）  登録名 |  |

|  |  |
| --- | --- |
| ⑨学 歴  （学部・修士） | 1. 年 月 大学 学部 学科卒  2. 年 月 大学大学院修士課程入学  （ 研究科 専攻） |
| ⑩博士の状況 | 1.入学年月：平成 （西暦 ）年 月 編・転・再入学  2. 編・転・再入学時の在学期間換算： 年 ヶ月  3.大学院名：  4.研究科名：  5.研究科種別：  6.専攻名：  7.課程種別：  8.修了・退学等：平成 （西暦 ）年 月  9.学位：平成 （西暦 ）年 月 日  10.休学期間合計： 年 ヶ月  11.平成 31（西暦 2019）年 4 月 1 日時点における博士在学期間累計（休学期間を除く）： 年 ヶ月 |
| ⑪研究・職歴 等 | 1. 年 月 ～ 年 月  2. |
|  | 日本学術振興会特別研究員採用歴  Ｄ Ｃ：平成 （西暦 ）年 月～平成 （西暦 ）年 月  （受付番号： － ）  Ｐ Ｄ：平成 （西暦 ）年 月～平成 （西暦 ）年 月 （受付番号： － ） ＲＰＤ：平成 （西暦 ）年 月～平成 （西暦 ）年 月 （受付番号： － ） |
| ⑫学歴、⑬博士の状況、⑭研究・職歴等別紙：有 | |
|  |  |

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| ⑬博士の特記 事項の有無 |  | | | | | | |
| （博士の特記事項） | | | | | | |
| ⑭ 出身大学院 の 研究指 導 者 | （フリガナ）  氏 名 |  | | 職 名 |  | | |
| 研 究 者 番 号 |  | | | | |
| 所属機関 |  | | | | | |
| 部 局 |  | | | | 部局 種別 |  |
| ⑮ 現在の受入 研究者 | （フリガナ）  氏 名 |  | | 職 名 |  | | |
| 研 究 者 番 号 |  | | | | |
| 所属機関 |  | | | | | |
| 部 局 |  | | | | 部局 種別 |  |
| ⑯ 採用後の受 入研究者 | （フリガナ）  氏 名 |  | | 職 名 |  | | |
| 研 究 者 番 号 |  | | | | |
| 所属機関 |  | | | | | |
| 部 局 |  | | | | 部局 種別 |  |
| 連 絡 先 |  | | | | | |
| ⑰申請者受入 部局正式名 |  | | | | | | |
| ⑱ 評価書作成 者１ | （フリガナ）  氏 名 |  | | 職 名 |  | | |
| 所属機関 |  | | | | | |
| 部 局 |  | | | | 部局 種別 |  |
| 連 絡 先 |  | | | | | |
| ⑲ 評価書作成 者２ | （フリガナ）  氏 名 |  | | 職 名 |  | | |
| 所属機関 |  | | | | | |
| 部 局 |  | | | | 部局 種別 |  |
| 連 絡 先 |  | | | | | |

ＰＤ